

《新たな管理型最終処分場の候補地の絞り込みについて》

1 これまでの取り組みについて

- ・本年2月1日、須崎市神田、香南市香我美町上分、佐川町加茂の3カ所を新たな管理型最終処分場の最終候補地として選定
- ・住民説明会やエコサイクルセンターの見学会を重ねて開催し、施設の必要性や安全性などについて説明
- ・こうした説明と並行して、現地調査を行い、各候補地及びその周辺の施設整備上の課題などを把握。結果は県議会や3市町の皆様に説明
- ・説明会資料にアンケート用紙を添えて3地区の各戸に配布
- ・質疑応答集を2回作成し、3地区の各戸に配布

2 候補地の絞り込みについて

(1) 県の受け止め

- ・住民の皆様には、最終処分場の必要性そのものについては概ね理解いただけたものと認識。
- ・地震による水漏れや土砂災害への心配をはじめとする様々な不安の声や、自らの地域に施設を造ってほしくないとの声もあり、住民の皆様の意見には3市町間で大きな差があるとは言い難い状況。
- ・他方、説明を重ねる中で、心配の声や意見は、自然災害への不安や施設整備による生活環境への影響に論点が絞られてきた。
- ・加えて、施設整備に合わせた周辺環境整備に関し、より具体的な質問や意見も多くなってきた。

(2) 絞り込みについての県の考え方

- ・今後、県として、住民の皆様の声にしっかりとお答えしていくためには、ボーリング調査や設計などの過程を通じて、個別の対策について検討を深め、詳細かつ具体的に説明することが必要となる。
- ・これには地権者の承諾や相当の費用を要するため、現段階において候補地を1カ所に絞り込み、次のより詳細な検討の段階に進むことが適当ではないかと考えたところ。
- ・絞り込みは、現地調査の結果に基づき、科学的かつ合理的に検証を行うことが重要。

3 現地調査結果の検討

(1) 地形・地質調査

ア 須崎市神田、香南市香我美町上分

小規模ながら自然災害の痕跡が確認されるも、施設の設計を行う際の検討により対応可能

イ 佐川町加茂

- ・石灰岩採掘跡の平坦地で、自然災害の痕跡は確認されていない。

・周辺では小規模な洞穴が2カ所確認されており、候補地の地下に空洞がないとは言い切れないが、万が一空洞が確認されたとしても、構造物に対する支持力を十分に確保する工法により対応可能

(2) 水に関する調査

・3カ所ともに周辺流域への地下水の大きな流動は確認されず、特段の課題はない。
・処分場は、処理水を無放流とし、国の基準を超える遮水構造とするとともに、南海トラフ地震で想定されている最大震度を超える地震にも耐えられる施設とするなど、万全の対策を取る。

(3) 候補地周辺調査

ア 既存道路を利用する進入道路整備案

⇒3カ所とも住民の皆様の生活に少なからず影響を及ぼす恐れあり

- ・工事用車両などの通行に伴う粉じんや騒音
- ・交通安全上の懸念
- ・拡幅工事に伴う住家の移転

イ 進入道路を新設する進入道路整備案

⇒既存道路利用案よりも住民の皆様の生活への影響は小さい

(ア) 須崎市神田

- ・農業用ハウスの移転

(イ) 香南市香我美町上分

- ・整備するトンネルの入口周辺に住家

(ウ) 佐川町加茂

- ・沿道に住家などのないルートとなり、住民の皆様の生活への影響は最小

(4) 南海トラフ地震による津波の影響の評価

高知市中心部から処分場へのアクセス性

ア 須崎市神田

- ・経路の一部に長期浸水エリアがあり、一定期間アクセス困難

イ 香南市香我美町上分

- ・経路の一部に長期浸水エリアがあるものの、迂回によりアクセス可能

ウ 佐川町加茂

- ・内陸部を通行するため、影響なし

4 結論

総合的に勘案すると、佐川町加茂において進入道路を新設する案が、科学的かつ合理的な視点からも、住民の皆様の不安の声に鑑みても最も有力

5 今後の取り組み

・12月県議会において、絞り込みの考え方について、より丁寧に説明し、議員の皆様のご意見を踏まえて、1カ所に絞り込む。

・絞り込み後は、地域の実情に応じた個別具体的な対応を含めて話し合い、より多くの皆様に理解を深めていただけますよう、一段と丁寧に取り組む。